

# 曾於文藝

うたごよみ

## 俳句

### 末吉俳句会

子を孕むろばを育ててキャンプ場

古藤 まゆ美

木漏れ日のとどく大岩岩煙草

瀬戸内 紀子

滝音を連れ来て遊歩道登る

西村 セツ

### 大陽俳句会

白南風や引き汐のこす貝の殻

逆瀬川 節子

行きずりの人と語らふ夏木蔭

岩重 みどり

参道は鳩の鳴くのみ青時雨

福村 よう子

## 短歌

### 末吉短歌会

シュワーツといふウルトラマンのポーズして

蜘蛛の巣の張る裏道抜ける

宝蔵 弘二

## 題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

働き方改革のやうに帰り来る

夕方五時の猫の真面目さ

長倉 佳津子

遅々として進まぬ細事梅雨といふ

言葉にほとほとうみてさうろう

森岡 ちどり

### 大陽短歌会

折込みのチラシを眺め旅をする

金はあるけどもう歩けない

米沢 正敬

霧島山に子等と登りし日もありき

昭和の御代は遠くはるけし

安藤 フヂ子

野鳥にも何がしかの知恵あるならん

斥候の鳥仲間呼びおり

西山 美代子

### 財部短歌会

雨降るを待ちみしごとく蛙たち

声高らかに合唱はじむる

杉村 リカ

山林も棚田も自力で切り拓き

住めば都と山上の人

児玉 次雄

平成の孫が令和に縁結ぶ

さやけき電話の声をのこしつ

井上 澄子

## 薩摩狂句

にがごい会末吉支部

老骨体 突然の油断

骨折つ

浜田 一好

句作いも ひよかつでたとが

良かちなつ

桐野 奈世

ひよかつ来て 米、野菜、味噌を

積ん帰つ

古川 一幹

杯く握つ 突然思めでた

休肝日

鈴木 一泉

### 大陽薩摩狂句会

何処彼処 崖が崩れつ

厄介事

津留 群志

褒めた脚 セクハラじゃつち

厄介な世

小倉 りんりん

気は若けが 身体が故障しつ

凄ぜ厄介

福元 多喜子

土地持つち 言どん草取い

厄介けちよつ

西山 美代子